



暖かい心 広い視野 行動力 『県民ひろば号外』

もりちゃん通信

大分県議会議員 守永信幸活動報告

発行責任者
大分県議会・県民クラブ
守永 信幸
〒870-0022
大分市大手町3-2-9
TEL 097-534-2021
FAX 097-536-0595

もりちゃんの 活動記録

沖縄の問題を他人事にしない ～全国地方議員交流研修会 in 九州・熊本に参加～

8月17日、熊本市で開催された「全国地方議員交流研修会 in 九州・熊本」に参加しました。玉城デニー沖縄県知事の講演会があり、知事は沖縄県の抱える米軍基地の問題を、民主主義の危機的状況と位置づけ、沖縄だけの問題ではないと訴えました。

米軍基地や関連施設は全国に存在します。米軍の管制空域が優先され、日常的に民間空路が制限されている現状もあり、事故が発生しても日本の警察などは直ちに現場に入れない可能性があるなど、日米地位協定の抱える問題は私たちの身にも降りかかってきます。今は課題が沖縄県に集中しているに過ぎず、どこにでも起こり得る私たち自身の問題として議論を深め、改善に向けて国を動かさなければなりません。



▲玉城デニー沖縄県知事と守永



第2回定例県議会（7月5日～31日） ～予算特別委員会で肉付け予算を審議～



▲予算特別委員会で質問する守永

今定例県議会では、新広瀬県政を進める初年度の予算について議論しました。既決の当初予算に肉付けする形で647億6300万円の補正予算が成立し、2019年度は総額6463億4200万円の予算となりました。以下に補正予算として成立した事業の一部をご紹介します。

○バス乗務員確保対策支援事業（予算額1645万円）

バス路線維持のための乗務員確保・養成を支援します。

○県外若年者U・I・Jターン促進事業（予算額1億6491万円）

大分県からの進学者が最も多い福岡県で若年者人材確保対策を強化するため、福岡に大分県内企業の情報発信や就職相談を行う拠点を設置し、福岡在住の学生や早期離職者等に大分県内就職を誘導します。

○親なきあと支援体制構築事業

（476万円）

障がいのある方が「親なきあと」も、地域で生活するための市町村による体制づくりを支援。併せて相談支援を行う担当者のスキルアップ研修等を実施します。

暮らしの相談承ります。

政治は暮らしに直結しています。
守永信幸が暮らしの相談を承り、専門家とともに解決をめざします。
まずは、お電話を！

TEL 097-534-2021

FAX 097-536-0595

子どもたちが心豊かに育つ環境づくり

◇増加する児童の虐待相談

福祉保健生活環境委員会で児童相談所に持ち込まれる児童虐待相談対応件数の増加について報告がありました。

全国的に増加しており問題になっていますが、県内で2012年度に753件であった相談件数が、2018年度は1,735件と2倍以上に増大しています。重大事にならないよう軽微なことでも通報等を促していることから「子どもの泣き声がする」などの通報が増えており、県の児童相談所に配置された人員は、国が求める基準の最低限は満たしているものの労働環境としては厳しいようです。

現場に配置されている職員の定数は、2012年度の49人から2019年度には64人にまで増員されていますが、増大する相談に対応するには、それでも足りない実態があるようです。

大分市で児童相談所の設置について検討の場がつけられましたが、県と市の連携な

ど議論はこれからです。

大分県は「子育て満足度日本一」をめざして各種施策を打ち出していますが、それらと同時に、こうした課題に向き合うための態勢を充実し、虐待のない社会をめざす取り組みが必要です。

◇子ども食堂で育まれる人間力

両親が共働きのため夕食を1人で食べたり、遅くまで待って食べるといった子ども達があります。一人親家庭で親が仕事から帰るのが遅いという子どももいます。子どもが生まれてくる家庭環境は違っても、その子の将来への夢が狭められることなく、その子の努力で将来を切り開ける機会が等しく与えられなければならないとして、様々な取り組みがなされています。その一つに「子ども食堂」があります。

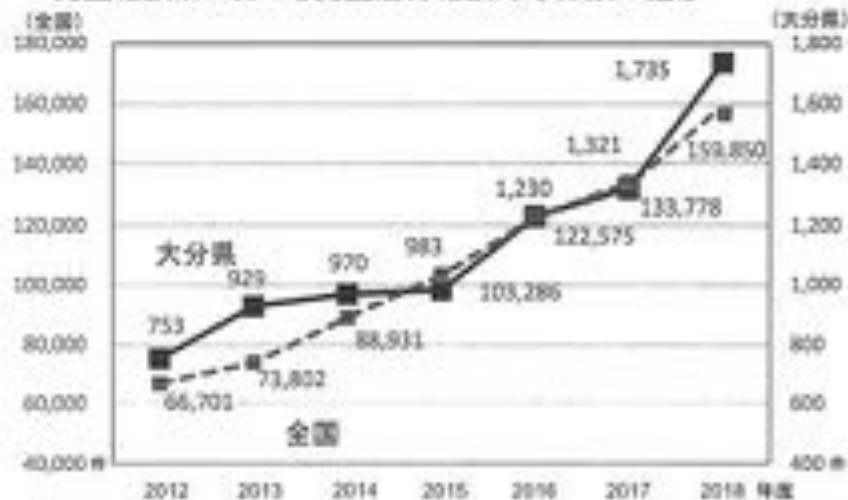
「子ども食堂」は大分県社会福祉協議会に登録されている食堂だけでも県下に56カ所あり、うち大分市内にあるものが17カ所。私の住む津留地区にも3カ所あります。(これらの施設は県社会福祉協議会のホームページに紹介されています)

自宅で一人で過ごすしかなかった子どもが、「子ども食堂」を訪ねることによって学校とは違った出会いがあるのは良いことではないでしょうか。宿題を持って行き、食事の時間まで宿題をする子、下級生に勉強を教える子や食堂の大人から勉強を教わる子が

いたりします。他者と話題を考えながら会話を。より人間力が育まれる時間を過ごすことができると感じます。

子どもたちを地域の財産として心豊かに

児童相談所における児童虐待相談対応件数の推移



2018年度児童虐待相談対応件数の内訳

身体的虐待	544件	31%
性的虐待	34件	2%
心理的虐待	840件	49%
ネグレクト	317件	18%
合計	1735件	100%

育んでいくために、温かく見守り、見守られる場として、より多くの地域の方々に支援して頂きたいものです。



▲子ども食堂
「すみれ学級2組」
(大分市大津町)

▶食事の様子



※すみれ学級HPから転載

◇子どもたちの生活実態調査

県では、子どもの生活実態調査を9月に行います。大分県内の小学校5年の児童や中学校2年の生徒及び保護者を対象に、家庭の経済状況と子どもたちを取り巻く環境

等をアンケート方式で調査・分析します。一人親家庭の支援ニーズの把握や一人親家庭を支援する機関の支援状況等も併せて調査します。

子どもたちの居場所づくりを考える場合、両親が揃っていても仕事のために子どもが一人になる時間が長くなってしまったり、子育て環境は様々です。実態を把握した上で、保護者のワーク・ライフ・バランスが欠如し、子育てに支障が生じた場合に子どもにとってより良い対処ができるよう施策を検討する必要があります。

調査結果は、2020年に見直しを行う「大分県子どもの貧困対策推進計画」の基礎資料とするほか、各市町村にデータを提供し、市町村における子どもの貧困対策の取り組みを支援します。この調査結果をふまえながら、子どもたちの居場所づくりと将来への夢を語り合える環境を整えるものしたいと思います。調査に該当する方々は、ご協力をよろしくお願い致します。

子どもの貧困対策全国キャラバン in 大分 ～子どもと仲間と『カタローエ・おおいた』～(仮称)

子どもの貧困の解消や子どもたちを一人にしない取り組みなど、子どもの育ちを支援する活動に取り組むグループが増えています。

手法としては子ども食堂であったり、学習支援であったり、制服の譲渡であったり、活動をする方々の思いは「子育て環境の改善」にあるのですが、活動に当たって悩みなどもあるようです。グループ同士でお互いのことを知り、関わりを持てたら、もっと楽しく活動できるのではないのでしょうか。

「子どもの貧困対策センター公益財団法人あすのば」の主催による全国キャラバンが各都道府県で開催されています。ここ大分県では以下の日程で、子どもの居場所づくりや子育て支援に向け、同じ目的を持つ仲間たちがどのような取り組みをしているのか、語り合う時間を設けます。各地域で取り組んで居られる方々だけでなく、関心のある方には広く参加して頂ければと思います。

子どもの貧困対策全国キャラバン in 大分

～子どもと仲間と『カタローエ・おおいた』～(仮称)

とき 2019年11月9日(土) 13:00～

ところ 大分市大津町 大分県総合社会福祉会館 4F 大ホール

主催 子どもの貧困対策センター公益財団法人あすのば

地域の元気づくりは農林水産業から

広瀬知事は、様々な場面で「農林水産業の生産・流通に関する構造改革を加速し、創出額拡大、収入増を図る」と言っています。

大分県では人口減少が本格的に進みつつありますが、中山間地域でその傾向はさらに激しいものとなっています。若者の雇用の場がないことが大きな原因の一つです。そのような情勢の中、県内で2018年度は農林水産業への新規就業者数は424人でした。この5年間で1,513人の方々が新規に農林水産業に就業しています。内訳としては農業に904人、林業に348人、水産業に261人です。

この成果は、例えば農業で言うと新規就農者に対する就農学校やファーマーズスクールが、市町やJA、各地域の農業公社によって設置され、篤農家の先輩方から日常的に指導を受けられる体制が整備されたことによるものと思われます。新規に就農した農業者が、基本技術を励行し、品質・収穫量共に先輩農家のレベルに迫るまでに至った事例を見てきました。

さらに県では、水田の米麦作から収益性の高い園芸品目へと転換を図り、これまでの戦略品目であるピーマン、トマト、こねぎ、いちご、ぶどう、花き、梨などの品目に加え、ニンニクやタ

マネギを「戦略品目ネクスト」として、産地化を支援していくとしています。県は水田の畑地化と表現していますが、排水対策を助成し、畑作物である園芸品目の栽培管理が徹底できるようにし、産地化を支援しようとしています。これらの施策で新規就農者が収益を上げ地域に定着できるようにしなければなりません。

農林水産業への就業は一つの手段ですが、地域で様々な就業の場が創出され、県下の各地域に若者が定住し、地域コミュニティの機能が維持されることが大切だと思っています。若者が地域に暮らし、家庭を築き、子どもを産み育てる。地域コミュニティが子どもたちを育む環境を創出することが求められていると考えます。



図は、大分県のホームページから

お知らせ

- ◇常任委員会は「土木建築委員会」に所属。
- ◇行政や暮らしに関わる相談をお請けしています。お気軽にご連絡下さい。
- ◇グループでの意見交換会に参加しますので、お声がけ下さい。
- ◇守永信幸後援会の会員を随時募集しています。年会費3千円です。守永の活動をご支援下さる方、ご連絡下さい。

連絡先：097-532-4919
FAX 534-6598

編集後記

若者の県内定着が大分県の将来の明暗を分けます。人の定着には、まず私たちが県内のことを知り、好きになることが肝心です。▶「大分学」というものがあります。大分のことを知り、大分に愛着を感じ、大分を良くしていこうとする姿勢が大切。▶亥年選挙が一段落しました。皆様の暮らしを守り、笑顔溢れる地域づくりのために、国・県・市町村の議員が連携しながら、皆様方の期待にしっかりと応えて参ります。